

船井情報科学振興財団

12 月留学報告書

荒川 陸 *

Carnegie Mellon University, School of Computer Science
Human-Computer Interaction Institute

December 2025

2021 年 8 月の頭に渡米をして、CMU でコンピュータサイエンス分野 (ヒューマンコンピュータインタラクション、HCI) の博士課程を開始しました。留学生生活第九回目の報告書です！

1.1 博論審査会の決定

5 年生ということで、本セメスターの一番大きな目標は、1) 他の (シニアな) 研究者とのネットワークを強くする、2) 博論審査会を決定する、ことでした。一つ目は、卒業後の進路を考える中で、何をするにせよネットワークは大事なので、特に意識することになりました。例えばアカデミア就職をしようとする、PhD 出願時と同様に、推薦状が大事になってきます。企業に行く場合もリファラルが大事です。またそもそも、キャリア的な観点以上に、自分がこれまで行ってきた研究や考えている問いを様々な人にぶつけてみたい、という思いがありました。メールを送って面談の時間を組んでもらって、これまでとこれからの研究をまとめた 10 分弱ほどの短いピッチを行いました。毎回の面談を経てピッチ資料がアップデートされるので、沢山のバージョンができました。場数はそれなりにこなしてきた気もしますが、やはりトークを磨くというのはすごい難しいことです。Research Statement を研ぎ澄まして、熱量を持って伝える必要があります。また色々な背景を持った人と話すので、どのように intellectually mature¹⁾ な会話をしていくか、という観点を強く意識するようになりました。もちろん毎回の会話がうまくいく訳ではありません。手元のメモ帳には失敗したなと思った発言などがどんどん溜まります。めげずに、こっちは第二言語で頑張ってるんや！とある程度恥は覚悟して頑張っています。

そしてこのように学内外の様々な研究者と会話するのに合わせて、自分の博論審査会の審査員の依頼も行いました。CMU HCII では内部から 3 人 (1 人はアドバイザー)、外部から 1-2 人を必要とします。アドバイザーはこの人選について自由を与えてくれたので、先輩や友人などの意見を聞きながら、依頼プロセスを進めました。具体的にどのようにして依頼する方を決めたのかは、分野

<https://rikky0611.github.io/>

¹⁾<https://admin.funai.foundation.jp/upload/funai/user/sdu610bxg48p.pdf>



図 1: (a) HLF のレセプション、(b) MobileHCI の前にカイロへ、(c) UIST で研究のデモ、(d) UIST で workshop の開催、(e) Ubicomp の前にロヴァニエミへ、(f) Ubicomp のバンケット

特有なところも多いので、ここでは省略します。自分の場合大まかには、なるべく HCI 分野の幅広い観点のフィードバックを受け取れるようにしました。最初の「留学決定に至るまでの経緯」でも述べたように、分野の幅広さこそが自分が HCI を好きになり、CMU を選んだ大きな理由です。そのため、総合格闘技のように多様な専門性をもつエキスパートの方々に依頼したいと考え、主テーマであるセンシングや機械学習・AI の技術だけでなく、デザインや社会科学といった観点でも内容を深化させたいと思いました。アドバイザー以外の方とはこれまで共同研究の経験などがなかったので、この依頼プロセスは緊張するものでしたが、みなさま優しく引き受けてくださりました。

総じて、本セメスターに多くの先輩研究者の方々と話せたことは、良い形で自身の comfort zone を広げられた瞬間だと振り返ります。博論審査を引き受けてくださった先生方はいずれも魅力的な研究に取り組んでこられた方々で、今から胸が高まる思いです。「オレが狂ったのは奴らのせいさ」と、般若の最っ下の MC、UMB2018 決勝の Authority vs. MU-TON の出だしのサンプリング²⁾が頭を流れます。

1.2 世界一周!?

幸運にも複数の論文が採択され、9、10月には4つの学会に参加しました(図1)。旅程が連続していたので、とても長い旅になりました。

1. HLF: ドイツのハイデルベルグで、フィールズ賞やチューリング賞を受賞された著名な研究者や同世代の研究者と1週間ほど交流を行いました。とても良い経験でした。おすすめです。具体的な体験はこちらに記しました。<https://note.com/hciphds/n/nbd6dfc47937b>
2. MobileHCI: エジプトのシャルムエルシェイクで開催されました。後述のUISTやUbicompに比べて規模は小さいものの、テーマが絞られているため興味深い研究がいくつか見つかりました。場所も珍しいところで新しい学会体験になりました³⁾。発表した論文の概要はこちらに記しました。<https://note.com/hciphds/n/n4bf55af54653>
3. UIST: 韓国の釜山で開催されました。ここでは主著の発表とデモに加えて、ワークショップを開催するという初めての試みでした。当日は議論が盛り上がり、ネットワーキングとしても満足度の高いイベントになったのではないかと思います。
4. Ubicomp: フィンランドのエスポーで開催されました。嬉しいことに、二つの賞を受賞しました。大きな会場のバンケットで壇上に上がって見た景色は、Yellow Bucksの「あの頃の俺に伝えたい 未来のお前は観客席にはいない」⁴⁾を思い出すものでした。

1.3 終わりに

最近、PhDが始まる一番最初にアドバイザーから言われた「君が independent researcher になることが、この課程の目標だよ」という言葉をよく反芻しています。ラボ内や学科の集まり、学会など、さまざまな場面で自分の立ち振る舞いや周囲への影響が少しずつ変わってきていることを実感しています。その変化に戸惑うこともありますが、同じような過程にいる友人たちとの日々の会話が支えになり、むしろ楽しさを感じられています。船井奨学生としてのつながりは、本当に貴重でありがたいものだと思改めて感じています。

²⁾<https://www.youtube.com/watch?v=tFZjJVFgHpo>

³⁾バンケットに水タバコが設置されていた。

⁴⁾<https://www.youtube.com/watch?v=I8By3KVLQgE>